

2023年2月27日

住友生命保険相互会社

～業界初！自分に合ったペースで健康増進に取り組める Vitality を更に楽しむ新機能～ パーソナル健康増進サポート & パーソナル疾病リスクレポート を提供開始

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、2023年3月から、健康増進型保険“住友生命「Vitality」”の業界初の新機能「パーソナル健康増進サポート&パーソナル疾病リスクレポート※¹」（アプリ内正式名称：ペース管理&疾病リスク、以下「本機能」）を順次提供いたします。

本機能では、Vitality 会員に健康増進活動を習慣化していただくため、目標とするステータスまでのポイント獲得ペースを管理したり、取組状況に応じたパーソナルアドバイスや疾病リスクを提供します。累計販売 130 万件を超える“住友生命「Vitality」”から得られる各種データ※²、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）とのアドバイスの伝え方に関する研究※³、これまで取り組んできたデジタルプロジェクトで得た知見を活かし、独自に開発したものであり、これらの機能は生命保険会社が提供するヘルスケア関連サービスにおいて業界初※⁴となっています。

“住友生命「Vitality」”は、南アフリカの金融サービス会社 Discovery Ltd. で開発された健康プログラムを日本市場に導入したもので、ノウハウの提供を受けながら日本での独自機能の追加、進化を続けています。住友生命では、これからもお客さまに新しい価値を提供できる商品やサービスの開発、それらを実現するためのデジタル&データ人財の育成に取り組んでいきます。

※¹ 本機能をご利用いただくには、スマートフォン等で Vitality アプリをダウンロードいただく必要があります

※² Vitality 健康プログラムによる歩数や健康診断等のデータ、生命保険契約によるお支払いデータ等

※³ 「性格特性や健康意識に応じた健康アドバイスの伝え方」に関する共同研究等

※⁴ 一般社団法人生命保険協会加盟 42 社について、当社調べ(2022 年 12 月末時点)

1. 本機能について

a. 概要

パーソナル健康増進サポート

会員が設定した目標ステータス達成までの「健康増進ペース管理」と、会員個人の性格や健康増進活動実績に基づいた「パーソナルアドバイス」を提供

- ✓ 目標ステータスをクリアできるよう運動ポイントの獲得ペースを管理
- ✓ 会員の性格・特性やポイント獲得状況を踏まえ、個別アドバイス「あなたへのオススメ」を提供

パーソナル疾病リスクレポート

会員の健康診断結果と健康増進活動に基づき「疾病リスクレポート」を提供

- ✓ 会員の経年の健康診断結果や運動実績と、住友生命における疾病等による保険金等お支払いデータの相関を分析し、会員ごとに定量化した「健康スコア」や「生活習慣病リスク」を提供

b. 提供対象プラン※5

標準プラン、家族プラン、ライトプラン、Vitality スマート

※5 Vitality 体験版を除く全プランが対象

c. 画面イメージ

<健康増進ペース管理>

住友生命 Vitality

目標ステータス「シルバー」です
目標を変更する >

現在の獲得ポイント
会員年度 2022年4月1日 ~ 2023年3月31日

14,500pt
20,000pt

現在の獲得ポイント内訳 +

未実施のメニューを実施しましょう！
実施することで目標達成かどうか確認しましょう！

運動以外に未実施のメニューがあります。会員年度末(3/31)までに実施してください。

未実施メニューを確認する v

1週間の運動ポイント獲得状況

今週
12月26日~1月1日

週間実績 140pt / 420pt

月	火	水	木	金	土	日
60	60	20	-	-	-	-
60	60	60	60	60	60	60

■ 実績 □ 設定ベース

目標達成に向けてもう少し頑張ってみましょう！

運動ペースを変更する >

<パーソナルアドバイス>

あなたへのオススメ

オンラインチェックに回答でポイント獲得

オンラインチェックで未回答の項目はありますか？未回答だと、合計最大3,000pt獲得できません。このポイントを獲得しないままだと、ステータスアップのチャンスを逃す可能性があります。

おすすめのアドバイスを受け取るにはアンケートに回答しましょう

健康意識に関する回答を変更する >

<疾病リスクレポート>

総合健康スコア 749点 / 1000点
前週比 +2点

18~29歳 男性Vitality会員の中で上位 20% です。

【健康になるためのヒケツ】
有酸素運動の効果
有酸素性運動の基本は「歩くこと」「走ること」です。脂肪がエネルギーとして燃焼されるため、肥満の改善に有効です。歩行の質を高めるためには、姿勢を正して、いつもより少し速く歩くことを心がけましょう。腕を軽く曲げ、しっかり振ることも大事です。

※一般社団法人 日本健康生活推進協会監修

生活習慣病リスク・健康診断履歴

生活習慣病リスク評価

糖尿病
18~29歳男性Vitality会員の中でやや低リスク (上位40%) です。

脳卒中
18~29歳男性Vitality会員の中でやや低リスク (上位40%) です。

「糖尿病・脳卒中・心血管疾患・腎臓病・がん」のリスク評価を確認出来ます。

2. 本機能のポイント

a. 「パーソナルアドバイス」の表示アルゴリズムと伝え方について

健康増進をサポートする Vitality 健康プログラムに、行動経済学に基づくパーソナルアドバイス「あなたへのおススメ」を追加します。追加に際し、会員属性（年齢、性別、会員年度開始月）および日々の運動の取組状況や健康診断書の提出有無などのパーソナルなリアルタイムデータに基づいて、次に取り組むべきことを優先度に応じて抽出するアルゴリズムを開発しました。

「健康のために生活習慣を改善しよう！」と頭では分かっているものの、生活習慣はなかなか変えられないものです。そんな方に、Vitality アプリというデジタルの力を通じて、Vitality 会員に寄り添ったパーソナルアドバイスを提供します。

パーソナルアドバイス「あなたへのおススメ」は、行動経済学のプロスペクト理論から生まれた「伝え方(フレーミング)」の概念を土台としています。「伝え方(フレーミング)」とは、同じ意味を持つ情報であっても表現方法を変えるだけで印象が変わり、意思決定に影響を及ぼす現象です。そこに着目して、性格や健康意識に関する3問のアンケート結果に応じて、行動変容の効果を最大化するようにアドバイスを出し分ける仕組みを産総研との共同研究に基づいて構築しました。共同研究においては、産総研のこれまでの行動経済学や心理学に関わる研究および今般の開発のための両者による実験結果を基にした分析を行っています。

本機能での提供を大規模な実証実験として、アドバイス内容と伝え方、行動変容の関係を分析し、継続的に Vitality 会員の健康増進に資するレベルアップを図っていきます。

<共同研究者からのコメント>



国立研究開発法人産業技術総合研究所

人間情報インタラクション研究部門 研究グループ長

木村 健太

住友生命様と産総研との共同研究では、健康増進のために行動変容の効果を高めることを目指して、個人の性格や健康意識に応じて伝達する情報とその「伝え方」を最適化する技術の研究開発を行いました。共同研究で開発された情報伝達を最適化する技術は、これまでの行動経済学や心理学に関わる研究知見だけではなく、共同研究の中で実施された性格や生活習慣などに関する数千人規模の調査データに基づいて開発されたものであり、日常生活での個人を対象とした実証実験においても有効性を確認しています。

b. 「疾病リスクレポート」におけるビッグデータの活用

Vitalityを通じて、年間で約100万件×365日＝3.6億日分のビッグデータが住友生命には蓄積されます。このビッグデータと人工知能（AI）を活用して、Vitality会員に対する5大生活習慣病（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、腎疾患）のリスク予測モデル「生活習慣病リスク」を、東京大学未来ビジョン研究センターの助言を受けながら開発しました。

さらに、現在のVitalityへの取組状況に基づいて、未来の健康状態をVitalityアプリ上で可視化する、住友生命独自の健康指標「総合健康スコア」^{※6}も開発しました。Vitality会員が身に付けるウェアラブル端末等から取得した活動データ、年に一度提出いただく健康診断データ、そして住友生命における保険金・給付金の支払データといった住友生命が保有するビッグデータに基づいて、会員それぞれの2年以内の入院リスク等を評価したもので、こうしたデータを活用した疾病予測モデルや健康スコアを保険会社が提供するのには業界初であり、グローバルに見ても類を見ない取組みです。

「生活習慣病リスク」「総合健康スコア」は、同性・同年代のVitality会員と比較して、自分のリスク度合いがどのあたりに位置しているかをVitalityアプリで確認することができます。5大生活習慣病のリスクを事前に把握し、Vitality健康プログラムを通じた健康増進活動を継続することで、発症リスクを軽減することが可能です。日々の運動への取組みレベルの変化に応じて、週次で自動更新する「総合健康スコア」は個人の日々の努力がスコアに反映される点で画期的であり、健康増進活動をナッジする効果も期待されます。

※6 「総合健康スコア」とは、これまでVitality健康レポートにおいて提供してきた「健康スコア」をレベルアップさせた住友生命独自の指標です。

<有識者からのコメント>



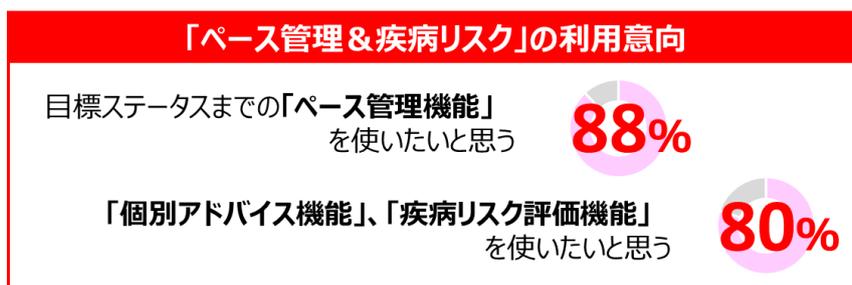
東京大学
未来ビジョン研究センター 特任教授
古井 祐司

今回、適用されている「生活習慣病リスク」や「総合健康スコア」は、Vitality会員の健康診断結果や喫煙状況に加えて、ウェアラブルデバイス等から取得した「直近の運動実績」も踏まえて評価している点に特長があります。また、週次で自動更新される健康指標も画期的です。自社内のデータで健康リスクを総合的に評価することや、多面的なサービスを提供できることが、Vitalityの強みなのだと思います。日本人の健康意識の維持、向上につながるソリューションとして、Vitalityの今後の発展に期待しています。

3. Vitality 会員の利用意向

住友生命が実施した Vitality お客さまアンケート調査によると、目標ステータスまでの「ペース管理機能」を（どちらかといえば）使いたいと回答いただいた方は 88%、「個別アドバイス機能」、「疾病リスク評価機能」を（どちらかといえば）使いたいと回答いただいた方は 80%です。

Vitality アプリは、引き続きお客さまのご要望に応じて、各種レベルアップを検討していきます。



4. 「Vitality スマート」への搭載

本機能は、2023年4月から発売する「Vitality スマート」^{※7}でも利用可能となる予定です。健康増進活動を後押しする特典（リワード）に加え、本機能によって、お客さまの「一人ひとりのよりよく生きる＝ウェルビーイング」に貢献していきます。

※7 詳細は <https://www.sumitomolife.co.jp/about/newsrelease/pdf/2022/221216.pdf> をご覧ください。

< 「Vitality スマート」のその他の特徴 >

- お客さまの日々の健康増進活動をポイント化し、累計ポイントに応じてステータスを判定
- 日々の運動（歩数・心拍数）だけでなく、フィットネスジム・オンラインフィットネスでの運動や、ウォーキング・マラソン等のイベント参加もポイント化
- 本商品の加入期間中に保険型に加入した場合、それまでの健康増進活動の取組実績（ポイント・ステータス）を引継ぎ可能
- 月額 330 円（税込）と、保険型の各種プランと比べても、低廉な利用料^{※8}

※8 Vitality 利用料は将来変更することがあります。「標準プラン」は利用料 880 円（税込）、その家族を対象とした「家族プラン」や 34 歳以下を対象とした「ライトプラン」は利用料 440 円（税込）です。

以上